茨木市立　　沢池小学校　全国学力・学習状況調査分析結果

令和6年 10 月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

（領域ごと）

① 言葉の特徴や使い方に関する事項	大変良好な結果であった
② 情報の扱い方に関する事項	良好な結果であった
③ 我が国の言語文化に関する事項	良好な結果であった
④ 話すこと･聞くこと	良好な結果であった
⑤ 書くこと	良好な結果であった
⑥ 読むこと	大変良好な結果であった

（問題形式）

① 選択式	良好な結果であった
② 短答式	大変良好な結果であった
③ 記述式	大変良好な結果であった

（無解答率）　概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の低かった設問
　２三ア　【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。（きょうぎ）
・無解答率が全国よりも高かった設問
　１二（１）オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する。

分析

国語は全般的に良好な結果であった。無解答率においては低い結果となった。また、全国と比べて「言葉の特徴や使い方に関する事項」が大変良好な結果であった。３・４年生のモジュールで丁寧に漢字学習を行い、言葉の確認などを積み重ねてきた結果が表れていると考えられる。また、記述式の問題でも正答率、無解答率ともに大変良好な結果であった。本校の努力目標である「お互いを認め合い、自信を持って表現できる子どもの育成」を教職員が意識して、思考を整理するためにふりかえりを書いたり、自分の考えを表現し相手に伝える活動を多く取り入れたりしてきたからであると考えられる。

一方、目的や意図に応じて伝え合う内容を検討することに関わる設問で無解答率が全国より高かった。日々の国語科の学習を日常生活とも結び付けることが大切である。

○●算数●○

（領域ごと）

① 数と計算	良好な結果であった
② 図形	良好な結果であった
③ 変化と関係	大変良好な結果であった
④ データの活用	良好な結果であった

（問題形式）

① 選択式	良好な結果であった
② 短答式	大変良好な結果であった
③ 記述式	大変良好な結果であった

（無解答率） 概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の低かった設問
　４（３）家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。

・次に正答率の低かった設問
　５（３）折れ線グラフから、開花日の月について、３月の回数と４月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について３月の回数と４月の回数の違いを書く。

分析

算数は、全ての領域において良好な結果であった。これも、３年・４年の習熟度別少人数指導、スクールサポーターの入り込み支援や教職員同士の児童実態理解、指導方法の連携により、個に応じた指導、基礎的・基本的な知識、技能の定着を図ってきた結果が表れていると考える。また、全国と比べると、変化と関係の領域では、良好な結果が見られた。授業中にテープ図やドット図などを活用し、問題解決的な授業を進めてきたことで、公式のみを覚えて問題に取り組むのではなく、問題の意味や仕組みについて理解できているため、どのような問題にも応用ができていると考えられる。

一方、直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題では課題が見られた。既習事項である立方体や直方体の体積の学習を踏まえ、角柱や円柱の体積について、必要な部分の長さを測り、計算によって体積を求めるという考えをもとに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高める資質・能力を育成する必要がある。今後も、児童の主体的な学びを促す授業づくりや学び合う活動を取り入れた「一人も見捨てない」授業づくりを意識して教育活動を行っていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

・各年度によっての差はあるが、国語・算数とも全国平均を基準とすると平均正答率は良好な状態が続いている。

・ 国語・算数ともに、全領域が全国平均を上回っている。習熟度別少人数指導やスクールサポーターの積極的な活用、問題解決を中心とした授業づくりや思考ツールを活用した思考力の育成などの成果が表れていると捉えることができる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

・国語は学力高位層が増加し、学力低位層が減少している。
・算数は学力高位層が増加しているが学力低位層も増加している。
・国語・算数ともに全国平均と比べるとエンパワー層の割合が非常に低いが、算数では低位層も増加しているため、引き続ききめ細かな指導を行い、学力の底上げを図っていきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① **授業改善**

・学びあう活動を取り入れた、「一人も見捨てない」授業づくり
（ペアやグループ、全体での話し合い活動などを通して意見を交流することで学びを深める）
・児童の主体的な学びを促す授業づくり　　・ふりかえりの記述
・全学年校内公開授業研究会の実施
・校内公開授業の実施
・パワーアップ研修会（専門的な教育技術の共有化）
・３，４年算数習熟度別少人数指導の充実

② **基礎学力の向上**

・「漢字学習」「ことばあつめ」等の取組み
・読書好きな児童を増やすための取組み（朝読書、地域ボランティアによる読み聞かせ）
・学校図書館支援員と連携した学校図書館の効果的活用（蔵書・配架の工夫）
・少人数指導教員やスクールサポーターを軸とする個別指導の充実

③ **全校での取組み**

・スクールサポーターとの丁寧な連携、習熟度別少人数学習などを通して個に応じた支援、指導を充実させる。
・学び合える集団づくりをすすめるために、自分も他者も大切に思う気持ちを養うことを重視する。
・異学年交流や異年齢活動の中で、子どもたちのコミュニケーション力や人と関わる力、自己有用感などを高める。
・これまで継続してきた学校行事を大切にし、ねらいを明確にした計画的な行事の取組みで、子どもたちに達成感を持たせ、集団の高まりや個人の成長を促す。
・学校として『思考力を養うためどのような手立てがあるか』を研究テーマに公開授業研究会や研修会を実施する。全学年でふりかえり活動を行い、書く時間の保障を行う。